

東邦看護学会 News Letter 2025

第25回学術集会を終えて

入会のご案内

学会への入会をお待ちしております。QRコードよりアクセスいただき、「新規会員登録」よりお申し込みください。



実践の知を紡ぐーファミリーヘルスからの再考ー 学術集会長 臼井雅美 (東邦大学健康科学部 教授)

第25回学術集会にご参加いただきどうもありがとうございました。2025年12月13日(土)にオンライン一部ハイブリッド開催で開催いたしました学術集会は、現代の家族をめぐる複雑な状況の中で、私たち看護職が現場で積み重ねてきた実践知を再考し、次の世代に紡いでいくための契機にできればと思います家族看護に焦点をあてたテーマとしました。演題発表では、一般演題14題、日々の取り組み報告12題と多くの優れた研究成果や臨床経験が共有され、活発な議論が交わされました。これらの交流が、今後の学術の発展や臨床現場での実践に大きな力となることを確信しております。本学術集会の開催にあたり、ご講演いただいた先生方、企画・運営にご協力いただいた皆様、そして何より、日常のご多忙の中で時間を割き、積極的にご参加くださった会員の皆さまに厚く御礼申し上げます。本学会が、今後の研究や臨床の発展につながり、さらに新しい共同研究やネットワークの芽となることを祈念いたします。ありがとうございました。

100th Anniversary TOHO 2025

第25回 東邦看護学会学術集会

実践の知を紡ぐ
ファミリーヘルスからの再考

会場：2025年12月13日(土)
会場：オンライン及び一部ハイブリッド開催

学術集会長
臼井 雅美 (東邦大学健康科学部 教授)

特別講演・市民公開講座
「平安時代の医療と、そこからはみ出た人々」
片瀬 須直氏 (アニメーション映画監督)

教育講演
「予測される今後の日本の医療ーこのままで大丈夫か?」
竹村洋典氏 (東京女子医科大学病院 総合診療科教授)

参加費期間：2025年7月1日(火)ー10月30日(木)
演題発表期間：2025年7月1日(火)ー10月19日(水)

参加費 正会員 3,000円
非会員 4,500円
学生 無料
(大学院生は学生対象外)

第25回 東邦看護学会学術集会事務局
〒274-8510
千葉県船橋市五反田2-1
東邦大学健康科学部
Email: 25thshk-sknage@sei.toho-u.jp

特別講演・市民公開講座

平安時代の医療と、そこからはみ出た人々 アニメーション映画監督 片瀬須直先生

アニメーション映画の製作過程で徹底的にリサーチされた、膨大な歴史資料を基に講演が行われました。平安時代の医療はどのようなものだったのか時代背景とともに紐解きながら、看護職ではない視点から語られたからこそ、日常的に実践しているケアについて、今一度新鮮な気持ちで振り返る貴重な機会となりました。本講演は「市民公開講座」としても開催され、学会関係者だけでなく多くの地域住民の皆様にもご参加いただきました。歴史の変遷を辿るだけでなく、これからの医療のあり方について立場を超えて共に考える、特別なひとときとなりました。



教育講演

予測される今後の日本の医療 ～このままで大丈夫ですか～

東京女子医科大学総合診療・総合内科分野・教授 竹村洋典先生

在宅医療のニーズがさらに増加している中で、看護職を含む医療人材が充足されているとはいえない現状を踏まえ、今後の日本医療のあり方について、総合診療医の立場からご講演いただきました。患者中心の医療をより重視すべきという考えのもと、多角的な視点から改めて学ぶことができました。将来予測と危機感を含んだ問題提起は示唆に富むものであり、これからの看護職に何が求められているのかを真摯に見つめ直す、充実した機会となりました。

教育セミナー

看護実践に活かすカルガリー家族看護モデル - 事例検討を通じて学ぶ家族支援のヒント -

天使大学大学院看護栄養学研究所・特任教授 中村由美子先生
東京医療保健大学 千葉看護学部・准教授 田久保由美子先生

看護実践の様々な場面で欠かすことのできない家族への支援について「カルガリー家族看護モデル」の概要の紹介とともに、模擬事例を用いた事例検討会を参加者と共にを行いました。家族の捉え方について見方を広げ、それぞれの看護実践の場でいかせるようなヒントを得ることができました。



シンポジウム

在宅医療 / 在宅ケアにおける ファミリーヘルスの再考

まちのナースステーション八千代 福田裕子先生
シーエスグループ 森のシティ薬局 薬局長 鈴木康友先生
聖路加国際大学名誉教授・湘南鎌倉医療大学非常勤講師 吉田千文先生

在宅療養者(児)を取り巻く家族背景は時代とともに変化しており、在宅医療/在宅ケアにおけるファミリーヘルスを再考する必要性から、在宅医療/在宅ケアに関わる様々な立場から、「家族へのケア」についてお話いただきました。ディスカッションを通して、在宅医療/在宅ケアにおける家族へのケアについて、変わらぬ大切にすべきことを再確認するとともに、これからの家族へのケアの形、ファミリーヘルスを考える機会となりました。

学生交流会

私のまちのファミリーヘルスを考える

看護学部と健康科学部の学生がそれぞれの知見を持ち寄り、お互いに共有しました。看護学部からは、『地域共生社会論』において調べた地域での多様な取り組みや、地域住民との交流活動を通じて得た学びを報告し、健康科学部からは、『看護の基本技術(地区診断)』での調べ学習をもとに、特定の地域で生活する人々の健康課題に対する支援策の検討結果を報告しました。お互いの成果をもとにディスカッションしながら、各地域の特性や健康課題、課題に対する取り組みについて共有・討議することで、学生の学びを深める機会になったとともに、両学部の学生間の交流を図ることができました。



学術集会賞に選ばれた皆様 おめでとうございます

● 病棟看護師が夜勤看護補助者とより良く協働するために必要なことは何か

東邦大学医療センター大森病院 朝長由嘉, 渡邊牧子, 西岡夕希, 神田公恵, 荒木弥生, 久保田美紀

この度は学術集会賞という名誉ある賞を賜り誠に光栄に存じます。本受賞は研究チームだけではなく、日々夜勤看護補助者との協働に励む病棟スタッフの成果であり、支えて頂いた方々には心より感謝申し上げます。現場での役割分担における戸惑いを解消し、より安全な質の高いケアを患者様へ提供したいと考えたのが研究の動機です。分析を通じ、個人の経験に頼らない「判断基準の明確化」の重要性を再認識しました。今後、夜勤看護補助者側の意見や思考過程を明らかにすることで、より良い協働ができると考えています。本受賞を糧に、今後の臨床と研究の双方で精進してまいります。本当にありがとうございました。



● 看護師の鼻腔における黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus) の定着と手指および周囲への拡散

東邦大学大学院看護学研究科博士後期課程・東邦大学医療センター大橋病院 榎本美郷

東邦大学看護学部感染制御学研究室 勝瀬明子, 小林寅詔

第25回東邦看護学会学術集会において、学術集会賞をいただきました。研究に快く協力していただいた看護師の皆様、先生方、院生の皆さんに支えられ実施できましたことを、心より感謝申し上げます。私は、看護師の鼻腔に存在するMRSAを含む黄色ブドウ球菌と、手指、医療環境から検出される黄色ブドウ球菌の関連について研究しています。WHOは手指衛生について5つのタイミングを提示しており、これらのタイミングに準じて手指衛生を行う場合、患者や医療環境に付着している微生物は意識しますが、医療従事者自身が持つ微生物について意識する機会は少ないように思います。医療従事者が、自身の持つ微生物も周囲に伝播する可能性があることを認識し、安全な看護を提供するための一助となるような研究ができればと考えています。



● 集中治療領域における急変時のDNAR代理意思決定支援に関する実態

- ICU/HCU病棟経験年数5年未満の看護師の看護介入に焦点を当てて -

東邦大学医療センター佐倉病院 長谷川美優, 葛西愛佳, 川崎千寿, 小山若菜, 中島ほのか,

福田利香, 伊藤義嗣, 安武絵美

東邦大学医療センター大森病院 永野貴秋

第25回東邦看護学会に参加し、学術集会賞を受賞することができましたことを大変光栄に思っております。私たちは、『集中治療領域における急変時のDNAR代理意思決定支援に関する実態

(ICU/HCU病棟経験年数5年未満の看護師の看護介入に焦点を当てて)』をテーマとして、若年看護師の思考や実践の実態を明らかにし、今後の看護に活かしたいと考え本研究に取り組みました。若年看護師は、限られた時間や経験不足の中で迷いながらも、家族に寄り添おうと懸命に関わっていることが示されました。本研究を通して、日々の看護実践を振り返り、思考や行動を共有することの大切さを改めて実感しました。今回得られた学びを、今後の看護実践に活かしていきたいと思っております。



● 整形外科手術を受ける患者への病棟看護師によるPCA使用教育の効果

東邦大学医療センター大森病院 高橋みなみ, 藤田奈緒美, 大田慧和, 高橋なるみ, 熊谷雄太, 門馬共代

この度は学術集会賞を頂戴し誠に光栄です。

私たちの看護研究では主に「患者様の苦痛を取るためにはどうしたら良いか」という所に焦点を当てて研究を進めて参りました。この過程で何が原因か、どんな情報が必要かなど医療者としての視点や患者からの視点で様々な角度から情報を集め分析していく事が必要と分かりました。時に研究に行き詰まることもあり、難航する事もありましたが最後まで諦めず無事に研究を終えられたことに安堵しています。疼痛コントロールの研究で培った能力を引き続き発揮し、急性期病院としての役割をスタッフが全うできる様に継承していきたいと思っております。このような貴重な機会を与えて頂き、心から感謝しております。ありがとうございました。



● 第26回学術集会に向けて ●

『治し支える医療』を急性期病院の外来看護から考える (仮)

学術集会会長 門田 昌子 (東邦大学医療センター佐倉病院 副院長・看護部長)

2026年12月19日 (土) オンライン開催 (予定)

2025年問題の年が過ぎ、これからは団塊世代ジュニアが高齢者となる2040年にむけた対策が必要となります。医療費増大により、在宅医療体制は2022年から『時々入院ほぼ在宅』として更に推進されています。そして、医療や介護、福祉といった複合ニーズを抱える高齢者の増加に伴い、継続的な支援を必要とする対象の人口増加にむけ、地域全体で在宅医療など高齢者等を継続して支援していく体制整備が求められています。しかし、少子高齢化の急速な進行により、想定を上回るスピードで生産人口の減少が進み看護師確保が難しくなることが予測されています。

人口が減少し診療所も減少していくなか、急性期病院であり地域医療支援病院の当院は、イレギュラーな入院を防ぎ、外来で継続して患者を管理していくことが更に必要となります。「統合的にマネジメントして『ほぼ在宅』を実現する」ために看護師は、具体的に何をすればよいか、どのように取り組んでいく必要があるのかを議論していきたいと考えています。

東邦看護学会誌への投稿のお知らせ

2026年度の投稿を7月より受け付けます。
投稿期限は **7月15日 (水)** です。
HPの「**オンライン投稿**」からご投稿ください。
皆様の投稿をお待ちしております。

研究奨励金募集のお知らせ

「2026年度研究奨励金」の募集を
4月1日 から受け付けます。
詳しくはHPをご覧ください。
皆様のご応募をお待ちしております。

